

## 寒さが厳しくなる季節は ガス給湯器や配管の凍結に、ご注意ください。

ガス給湯器には、凍結予防ヒーターが装備され自動で機器内部の凍結予防を行うことができる機種もありますが、寒い冬の時期、特に気温の下がる夜間や早朝時には、ガス給湯器や配管内の水が凍結して、お湯が出なくなることがあります。その予防方法として、以下の措置を参考に対策をお取りくださいますようお願いいたします。

### 凍結予防方法

1. 給湯器内は外気温が凍結する温度近くになると、凍結予防ヒーターや循環ポンプの作動等で凍結予防する為、絶対に電源プラグを抜かないでください。(運転スイッチ「入・切」に関係なく凍結予防します。)  
※ただし、給水・給湯配管や給水元栓などの凍結は予防できません。
2. 追焚き付給湯器から音がすることがありますが、これはガス給湯器の凍結防止装置が作動してポンプが運転しているもので、異常ではありません。詳しくはガス給湯器の取扱説明書をお読みください。
3. ガス給湯器の給水配管に保温装置が取られていない場合や保温が不十分な場合には、保温材(市販の保温チューブ、タオル)等で巻くなど凍結防止の対策を取ってください。  
※当社でも、有償で保温材の取付けを行っておりますので、ご利用ください。

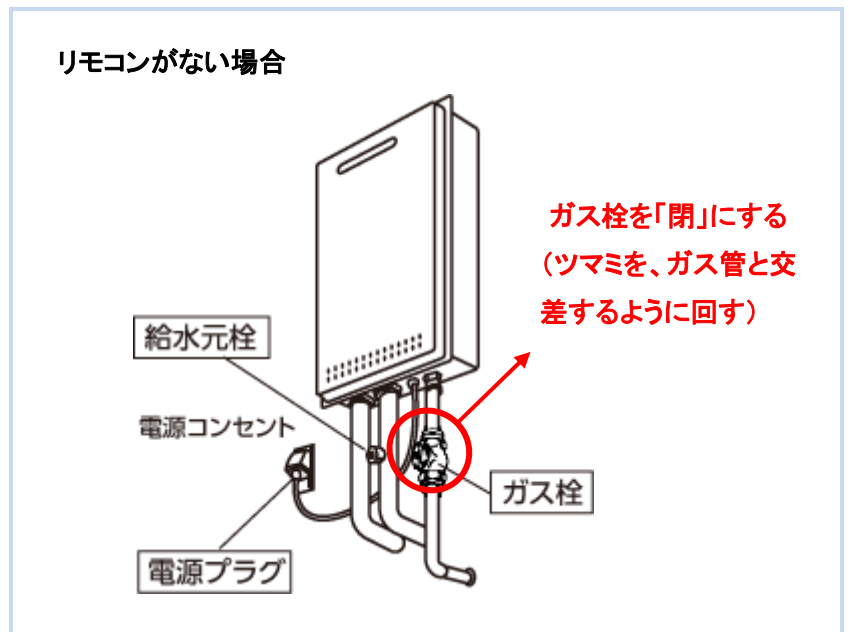
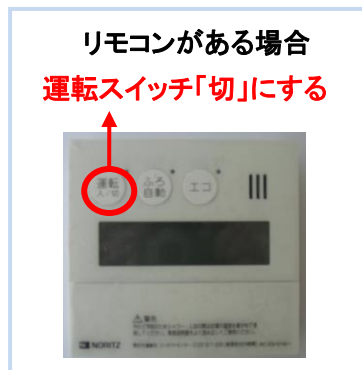
### 特に冷え込みが厳しい日の凍結予防について

冬場の低温注意法発令時や特に冷え込みが厳しいときは、保温材の対策を行っても、給水・給湯配管やガス給湯器内部が凍結してしまう恐れがあります。その際は、以下の手順で通水処置をし、凍結予防をしてください(動く水は凍りません)。

手順① ガス給湯器のリモコンがある場合、運転スイッチを「切」にしてください。

リモコンがない場合、ガス給湯器のガス栓をしっかりと閉めてください。

(次の手順②を行うことで、ガス給湯器が燃焼する可能性があるため)



**手順② 給湯栓を開き、少量の水(1 分間に約 400 cc…太さ約 4mm)を流し続けてください。浴槽などで受けると経済的です。**

※サーモ付混合水栓以外の場合は、給湯カランを「開」にしてください。

※流量が不安定な場合がありますので、念のため、約 30 分後に再度流れる量を確認してください。

※サーモ付混合水栓やシングルレバー混合水栓の場合は、やけど予防のため再使用時の温度設定にご注意ください。

※この処置による水道代は、お客さまのご負担となりますのでご了承ください。



**1 分間に 400 cc (約 4 mm)**

### 万一、凍結した場合

万一、配管が凍結した場合には、無理に溶かそうとはせずに自然に解凍するまで待つことをおすすめします。また、給湯栓から水が出るようになっても、ガス給湯器本体や給水・給湯配管から水漏れ等がないかよくご確認のうえ、使用してください。

### 未入居の住居または長期間ご使用にならない場合

未入居の住居や、ガス給湯器を長期間ご使用になられず電源をお切りになられている場合は、給湯器内部の凍結防止のため給湯器本体の水抜きをする必要となります。詳しくは、取扱説明書をご覧ください。

※あくまでも、凍結の予防策です。何らかの理由(水栓バルブの故障や給湯器本体内の残水など)で凍結する恐れがあります。

※ガス給湯器、給水・給湯配管の凍結による故障は、保証期間内であっても有償修理となりますのでご了承ください。